基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（1）観点ごとの分析

９－１　教育の状況について点検・評価し，その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され，取組が行われており，機能していること。

観点９－１－①：　教育の状況について，活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し，蓄積しているか。

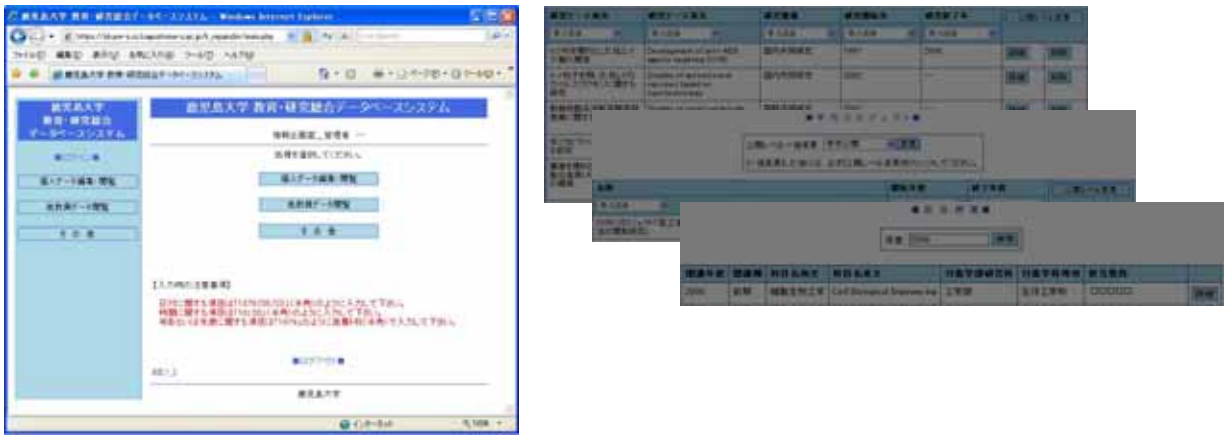
【観点に係る状況】

全学的に、各教員が自身の教育・研究活動について点検・評価の必要から、18 年３月より教育・研究総合データベースを構築し、全教員を対象にデータ入力を開始した（資料９－１－①－A、前述別添資料３－２－②－１、別添資料９－１－①－１）。

その結果、各教員は、毎年、自己点検・評価を行うことができ、組織的にも部局単位で３年ごとに活動状況を評価する制度（構成員の活動状況等の点検・評価）が可能となった。また、水産学部では部局独自の観点からデータベースを作り、教育研究の活動状況の把握に関して充実を図っている（別添資料９－１－①－２）。

資料９－１－①－A

○鹿児島大学　教育・研究データベースシステム（ホームページ）（学内のみアクセス可）



（出典　鹿児島大学ウェブサイト：学内のみアクセス可）

【根拠資料欄】

別添資料９－１－①－１　　教育研究総合データベース入力マニュアル
別添資料９－１－①－２　　水産学部データベース調査票

【分析結果とその根拠理由】

各教員は、全教員を対象とする教育研究データベースに自らの活動状況を毎年入力し、部局等はその情報を基に組織全体の活動状況を評価することとなっている。一部の部局においては独自のデータベースを作り、教育研究に関する活動状況の把握に努めている。

以上から、教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積している。

観点９－１－②：　学生の意見の聴取（例えば，授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行われており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

【観点に係る状況】

授業評価アンケート（前述別添資料６－１－①－１）は部局毎に毎学期実施し、各教員にアンケート原票を返し、授業改善に役立てている。アンケートの分析結果は、全学委員会で報告するほか、FD 委員会報告書に掲載して教員に配布している。これにより得られた情報をもとに、各教員及び各部局等が自己点検・評価を行い、改善点を検討するシステムを構築している。様々な学生に対応するため、留学生の学習・生活状況などを含めた総合的なアンケートを、日本語・英語・中国語で作成し、５年に１回（最近では 18 年度）調査している。（前述別添資料７－１－③－２）。留学生を対象とする授業評価も毎学期実施（別添資料９－１－②－１）している。

教育センターでは、学生・教職員が参加する FD ワークショップ「鹿児島大学の教育を変える」を企画するなどして、学生・教員のニーズの把握に努めている。基準７で説明した学生生活実態調査及び学生意見箱で得られた意見の中には授業改善に関する要望も含まれている。学生の意見への対応については、学生部等、意見対応窓口から関係部局及び教員へ直接伝達され、速やかに改善に結びつける流れができている（別添資料９－１－②－２）。

【根拠資料欄】

別添資料９－１－②－１　　留学生アンケート調査（部局例示：理工学研究科）
別添資料９－１－②－２　　学生意見箱の対応事例（部局例示：教育センター）

【分析結果とその根拠理由】

学生からの意見聴取に関しては、FD 委員会を中心に授業評価等のアンケート調査を実施して、報告書にまとめられている。各教員は、報告書等に基づき自ら改善を図るようにしている。

各教員は、学生からの意見内容等を参考としながら点検・評価を行っている。

また、学生意見箱を通じて個別の事案についても随時対応している。以上から学生の意見の聴取が適切に行われており、その内容が自己点検・評価に反映されている。

観点９－１－③：　学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

【観点に係る状況】

学部・大学院の編成が多分野・多岐にわたるため、学外関係者の意見の聴取は、各学部等により様々な意見聴取先を持ち、自己点検・評価に反映させている。

例えば、法文学部では学生の保護者による後援会を組織しており、入学式の日の保護者歓談会を通して保護者の意見を広く収集し、学部、大学院の運営に反映させている。人文社会科学研究科では、学外の有識者よりなる支援ネットワークを形成し、プロジェクト研究の課題決定、研究発表会の評価を行っている。

理学部では、ゼミ担当者を通じて卒業生や就職先の関係者の意見を汲み上げ、各学科の自己点検・評価に反映させて来た。また、地域での社会活動等を通じて、多様な機会で学外専門家からの意見聴取を行い，学部の自己点検・評価に反映させている。

医学部では、クリニカルクラークシップの指導を依頼している学外医療機関等から意見を聴取している。歯学部では、鹿児島県の歯科医師会及び同窓会との交流会を通して意見の聴取をしている。

工学部では、JABEE認定を受けるため、卒業生等からの意見聴取は必須で多方面に反映させている。

水産学部では、ISO9001に基づく教育システムで、卒業生、就職先企業を対象にアンケート調査を行っており、学部の教育目標に反映させる制度になっている。

全学的には18年度に，卒業生や就職先の関係者への教育の成果等を問うアンケートを実施し、報告書（前述別添資料６－１－⑤－１）にとりまとめたところであり、今後の就職指導の改善や、インターンシップの充実、留学生や海外連携大学の拡大等々、さまざまな分野に反映させる計画である。

【根拠資料欄】
なし

【分析結果とその根拠理由】

各学部では、実情に合わせて、卒業生、保護者、就職先の関係者、地方公共団体の関係者、学校関係者、学外の有識者等から意見聴取を行い、その意見を恒常的に教育の改善に反映させている。

全学的な取組みとしては、18年度に学生が就職した企業や卒業５年目の卒業生に対して、教育の成果等を問うアンケート調査を実施したところであり、この調査結果を踏まえながら、全学及び各部局での点検・評価に反映させていくこととしている。

以上から、学外関係者の意見は，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点９－１－④：　評価結果がフィードバックされ，教育の質の向上，改善のための取組が行われ，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的方策が講じられているか。

【観点に係る状況】

評価結果を教育の質の向上、改善に結びつけるための具体的方策としてPDCAサイクルを確立し、これに従って全学的で継続的に取り組んでいる。教育課程の質の向上や改善のための取組については、所掌する委員会等でプランを立て、各部局において実行し、評価・チェックを受けた後、適切な対応策を決定するシステムとなっている。各学部でも、委員会等でプランを立て、学科・専攻で実行し、評価・チェックを行った後、評価結果を教育

の質の改善に結びつけることができる体制としている。この他にも部局等によって教育活動に関する改善のための検討委員会を設けている。具体的な例としては、工学部のJABEE（別添資料９－１－④－１）、水産学部のISO9001品質管理システム（別添資料９－１－④－２、別添資料９－１－④－３）が挙げられる。

【根拠資料欄】

別添資料９－１－④－１　　日本技術者教育認定制度の現状と展望（ＪＡＢＥＥ　概要）
別添資料９－１－④－２　　ISO9001（品質マネジメントシステム）（ISO9001　概要）
別添資料９－１－④－３　　教育システム運用マニュアル（水産学部）

【分析結果とその根拠理由】

工学部ではJABEE認定制度の下に自らの教育内容・方法の向上に反映させている。水産学部ではISO9001教育システムを取り入れた継続的改善システムなど、具体的に機能させている。その他の部局でも教育の成果に関するPDCAサイクルの適用が浸透している。

全学的には、各種委員会を中心としてPDCAサイクルを確立して、改善に向けた取組を行っている。それぞれの委員会では、担当理事のもと、チェック・改善が機能するよう配慮するとともに、教育内容・方法が向上するよう機能強化を図った。以上から、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的方策が講じられている。

観点９－１－⑤：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。

【観点に係る状況】

個々の教員は、様々な評価結果に基づいて教育改善を行っている。主な取り組みとしては、教育センター高等教育研究開発部による授業改善の学習会やシンポジウム等の開催（別添資料９－１－⑤－１）、学生の授業評価結果や意見の各教員へのフィードバック、FD研修授業（授業参観）（別添資料９－１－⑤－２）の実施等を行っている。

水産学部ではISO9001教育システムを利用し、「教育実現計画書」（別添資料９－１－⑤－３）及び「シラバス」に授業内容が適合して実施されているか、また効果的に実施され、維持されているかについて内部監査を定期的に実施している。医学部保健学科では、作業療法学専攻において、学生による授業評価アンケートの結果に基づき視聴覚教材を新たに整備し、教材や教授技術の改善と共に、教育内容の質の改善に取組んでいる。

【根拠資料欄】

別添資料９－１－⑤－１　　高等教育研究開発部活動報告（教育センター年報Ｎｏ．３）
別添資料９－１－⑤－２　　ＦＤ研修授業報告（教育センター年報Ｎｏ．３）
別添資料９－１－⑤－３　　教育実現計画書（水産学部）

【分析結果とその根拠理由】

学生の授業評価結果のフィードバック、学習会やシンポジウムの開催、教員相互の授業参観等を通して、組織として授業内容，教材，教授技術等の継続的改善に取組んでいる。教育センターでは、共通教育の一部の科目を一般市民にも開放し、意見を聴取している。部局ごとには改善に向けての特色ある取組みもある。

以上から、教員は，質の向上を図るとともに授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている。

９－２　教員，教育支援者及び教育補助者に対する研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントについて，学生や教職員のニーズが反映されており，組織として適切な方法で実施されているか。

【観点に係る状況】

各学部等では、FD 委員会が中心となって、学生による授業評価、教員相互の授業参観、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなどを開催するとともに、学生との意見交換会を開催し、教育の在り方等、実情に関する問題点や、学生のニーズの把握に努めている（前述別添資料２－１－②－３）。

教員相互の授業参観では、授業参観後に、授業担当者と参観者の意見交換や、参観者によるレポートの作成を行うことにより、授業改善を行っている（別添資料９－２－①－１）。

水産学部では、シラバス作成後に「シラバスチェック項目表」（別添資料９－２－①－２）により教員間で相互に確認する体制を取っている。

【根拠資料欄】

別添資料９－２－①－１　　教育改善サイクルの運用状況（教育センター）
別添資料９－２－①－２　　シラバスチェック項目表（水産学部）

【分析結果とその根拠理由】

各学部では、FD 委員会が中心となり、学生による授業評価、教員相互の授業参観、シンポジウム、ワークショップ、学生のセミナーなどを開催し、改善に向けた方策等を議論している。また、学生との意見交換会により、ニーズの把握に努めている。その他、教員相互の授業参観も全学的に義務化し、教員相互の意見交換を行い、教員のニーズを FD に反映させている。

以上から、FD について，学生や教職員のニーズが反映されており，組織として適切な方法で実施されている。

観点９－２－②：　ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点に係る状況】

各部局ではFDをもとに授業改善に結びつけている（別添資料９－２－②－１）。また、FD報告書（別添資料９－２－②－２）によると、それぞれの学部でFD研修授業、授業参観、セミナー、シンポジウム等の取り組みが成果を挙げている。学部によっては、FDに関する講演会を企画し、他大学から講師を招聘して本学の現状と比較検討し、改善に結びつけている学部もある。

教員相互の授業参観制度では、「授業参観報告書」の提出を義務付けている。これにより、教員は常に授業の改善を行っている。

具体的改善例として、理学部では講義内容の理解を促すために、各講義を結んだ授業連続性マップ（別添資料９－２－②－３）を作成しシラバスを補強している。

また、アンケート等に基づきグループ学習や発表を増やしたり、高校の授業との繋がりを考えた内容にするなどの工夫を行っている。さらに、欠席者の減少に向けた取組、成績不振者への対策等も検討している。

【根拠資料欄】

別添資料９－２－②－１　　ＦＤ活動報告（部局例示：工学部、歯学部、水産学部）
別添資料９－２－②－２　　各学部ＦＤ活動報告（教育センター年報Ｎｏ．３）
別添資料９－２－②－３　　授業連続性マップ（理学部）

【分析結果とその根拠理由】

学生による授業評価等の結果を受けて、授業内容の恒常的な見直しを行っており、FDが教育の具体的な改善に結びついている。また、教員相互の質の向上に向けた各種取り組み（FD研修授業、授業参観、セミナー、シンポジウム等）により、教員相互の連携が生まれ、教育の組織的な改善が行われるようになった。以上から、FDが大学全体として、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点９－２－③：　教育支援者や教育補助者に対し，教育活動の質の向上を図るための研修，その資質の向上を図るための取組が適切になされているか。

【観点に係る状況】

事務職員には、全学的に資質向上のための研修（別添資料９－２－③－１）を実施している。

技術職員は、鹿児島大学技術部技術職員研修（2年に1回）、九州地区国立大学法人等技術専門職員研修を受講している。工学部や農・水産学部の技術職員は、農水系技術部技術職員研修などの独自の研修を行っている。医学部では、教育支援者としてボランティアの模擬患者(SP)を医学教育セミナーに派遣し、質の向上を図っている。水産学部のISO9001教育システムでは、技術職員の力量評価や、事務職員の研修計画などもモニタリングされ、事務職員、技術職員等の教育支援者を対象に、必要な知識・技術・資格の習得及びパソコン管理関連等の研修を、FD委員会が中心になって行っている。

TA には、マニュアル（前述別添資料５－６－②－１）を作成し事前指導等に供するとともに、実践の場で能力向上のための指導を行っている。留学生チューターにもマニュアル（別添資料９－２－③－２）を整備し、オリエンテーションを行い資質の向上を図っている。
留学生センターでは、非常勤講師、ボランティアなどと共同指導体制をとっており、教育支援者に対する事前研修、学期中の研修、事後報告制度などにより、プログラムの質を保証している。
この他、学生系職員を対象とした学外研修（別添資料９－２－③－３）にも積極的に派遣し、資質向上を図っている。

【根拠資料欄】

別添資料９－２－③－１　　研修実施計画書（平成１８年度）
別添資料９－２－③－２　　個人チューターのためのマニュアル（留学生センター）
別添資料９－２－③－３　　九州地区学生指導職員研修会日程表（平成１８年度）

【分析結果とその根拠理由】

TA などの教育補助者に対しては、マニュアルを作成するとともに事前・事後指導も適切に行っている。また、技術系、事務系職員等の教育支援者に対しては研修等を企画し、資質の向上に努めている。
医学部では、模擬患者（SP)を医学教育セミナーに派遣し、教育支援者の質の向上を図っている。
水産学部の ISO9001 教育システムでは、教育支援部署を対象として、組織的な資質の向上を目指している。
以上から、教育支援者や教育補助者に対し，教育活動の質の向上を図るための研修，その資質の向上を図るための取組が適切になされている。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】
本学は、学内全体の PDCA サイクルの機能強化を図っているが、特に水産学部の ISO9001 に基づく教育システムは、学生（顧客）満足度を重要視しており、教育プロセスの明確化と相互関係の把握、運営管理を実践している。これは教育の質を保証するための優れたシステムであり、全国的にも例を見ない特色ある取組である。

【改善を要する点】

特になし

（３）基準９の自己評価の概要

本学では、18 年３月に教員活動を把握し、それを評価に反映させるために教育研究総合データベースを構築し、全教員が入力を行っているところである。これにより教育活動の実態を示すデータを蓄積すると同時に、組織的な評価の基礎データとして活用することとしている。
学生の意見聴取については、部局で授業評価アンケートを実施し、FD 委員会で取りまとめを行い、結果

を個々の教員に伝えられるシステムとなっている。なお、留学生についても配慮を行い、英語等の外国語での調査を実施している。

学外関係者の意見については、18 年に卒業生及び就職先へアンケート調査を行い、その内容を報告書にまとめ、全学的に周知したところである。今後この内容については全学及び各部局単位で検証を行い、改善のための資料としての活用を考えている。

そのほか、教育補助者の育成及び資質向上等、事前指導や各種研修等を適宜行い、それぞれの向上に役立てている。

FD 活動に関しては、授業アンケートだけではなく、教員相互の授業参観による評価活動等を通じた向上を目指している。

以上のように教育の向上を図るため、全学で資質向上等が図られるような様々な取組が実施されている。